

◆第8章

- 伊吹早織（2017）「立憲民主党の街頭演説が「SNS 映え」する理由——自民党と比べたらわかる秘策が」『バズフィードニュース』（<https://www.buzzfeed.com/jp/saoriibuki/cdp-ldp-ga-isen>）。
- 稲増一憲（2014）『政治を語るフレーム——乖離する有権者、政治家、メディア』東京大学出版会。
- 稲増一憲（2022）『マスメディアとは何か——「影響力」の正体』中央公論新社。
- 内山融（1999）「マスメディア，あるいは第4の権力？」佐々木毅編『政治改革 1800 日の真実』講談社。
- 逢坂巖（2014）『日本政治とメディア——テレビの登場からネット時代まで』中央公論新社。
- 北村智・森康俊・辻大介（2016）「情報行動の全般的傾向」橋元良明『日本人の情報行動 2015』東京大学出版会。
- 上ノ原秀晃（2014）「2013年参議院選挙におけるソーシャルメディア——候補者たちは何を「つぶやいた」のか」『選挙研究』30(2)：116-128。
- 蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一（2010）『メディアと政治 改訂版』有斐閣。
- 清原聖子・前嶋和弘・李洪千（2013）「鼎談 2013年参院選に見るネット選挙運動の将来」清原聖子・前嶋和弘編『ネット選挙が変える政治と社会——日米韓に見る新たな「公共圏」の姿』慶應義塾大学出版会。
- 境家史郎（2022）『選挙・世論対策 若年層を取り込んだ「静かなる革命」』アジア・パシフィック・イニシアティブ「検証安倍政権 保守とリアリズムの政治」文藝春秋。
- 鮫島浩（2022）『朝日新聞政治部』講談社。
- 砂川浩慶（2016）『安倍官邸とテレビ』集英社。
- 芹川洋一・佐々木毅（2017）『政治を動かすメディア』東京大学出版会。
- 田中辰雄・浜屋敏（2019）『ネットは社会を分断しない』KADOKAWA。
- 辻大介（2021）「ネットは世論を分極化するか——政権支持と改憲賛否を中心に検証する」辻大介編『ネット社会と民主主義——「分断」問題を調査データから検証する』有斐閣。
- 西田亮介（2015）『メディアと自民党』KADOKAWA。
- 橋元良明・北村智・森康俊・木村忠正・辻大介・片桐恵子・大野志郎（2021）「情報行動の全般的傾向」橋元良明編『日本人の情報行動 2020』東京大学出版会。
- 林香里（2017）『メディア不信——何が問われているのか』岩波書店。
- Cappella, J. N. and K. H. Jamieson. (1997), *Spiral of Cynicism: The Press and the Public Good*, Oxford University Press. (平林紀子・山田一成監訳『政治報道とシニシズム——戦略型フレーミングの影響過程』ミネルヴァ書房，2005年)
- Iyenger, S. (1991) *Is Anyone Responsible? How Television Frames Political Issues*. Chicago University Press.

上神貴佳 三浦まり編『日本政治の第一歩〔新版〕』（有斐閣，2023年）引用・参考文献
ISBN：978-4-641-15112-3

Kobayashi, Tetsuro, and Inamasu, Kazunori. (2015) “The Knowledge Levelling Effect of Portal Sites,” *Communication Research*, 42(4): 482-502.

Sunstein, C. R. (2001) *Republic.com*. Princeton University Press. （石川幸憲訳『インターネットは民主主義の敵か』毎日新聞社，2003年）

Sunstein, C. R. (2017) *#Republic: Divided Democracy in the Age of Social Media*. Princeton University Press. （伊達尚美訳『#リパブリック——インターネットは民主主義の敵か』毎日新聞社，2003年）